



## ピックアップ新図書館

新図書館には旧図書館にはなかった様々な設備やサービスがあります。その中からいくつかご紹介しましょう。まず、1階の南側にある総合案内。こちらでは図書館の各種サービスや利用方法を案内するほか、イベントスペース、多目的ホール、交流ルーム利用の予約を受け付けます。総合案内の隣にあるカフェではコーヒーやサンドイッチ、ケーキなどが販売されています。ここは館内で唯一飲食ができるスペースです。また、2階と3階にはオープンテラスがあります。こちらでは飲食はできませんが、外の空気を吸いながらの読書も楽しめます。新しくなった図書館では来館者への案内や快適に過ごせる場所が充実しています。



## 図書館ご利用にあたってのお願い

新図書館では、借りたい図書を、ご自宅からインターネットで予約し、予約棚で受け取り、自動貸出機で貸し出しの手続きをするなど、ご自身で簡単に予約・貸出を行っていただけます。大変手軽ですので、予約件数も急増しています。

ただし、予約サービスについては、ご利用中の方が予定の期日に返却されませんと次の方がスムーズにご利用いただけません。資料の返却期限は必ずお守りいただきますようお願いいたします。

また、貸出中の図書に飲み物をこぼしてしまった、書き込みをしてしまったというような例が多く見受けられます。このような場合は弁償していただくことがありますので、ご注意ください。

皆様が気持ちよく利用できるよう図書館資料はマナーを守ってお使いいただくようお願いいたします。

## Information

## イベント案内

- 「朗読21公演」 3月24日(日)午後2時～  
阿刀田館長のお話と阿刀田慶子氏による朗読を行います。
- 「阿刀田館長特別展」 4月16日(火)～5月12日(日)  
「阿刀田館長講演」 4月17日(水)
- 「こどもにすすめたい本 2013」 4月23日(火)～5月12日(日)
- 「平成25年度 関東地区公共図書館協議会 総会・研究発表大会」 6月20日(木)～21日(金)

## 編集後記

新図書館の開館にあわせて今号から「読書山梨」をリニューアルしました。新しく始まった「ピックアップ新図書館」のコーナーでは新図書館でぜひ知っていただきたい施設や事柄に関してご案内しています。また、「やまなし読書人」では県内の様々な場所で本や読書に関わる活動をされている方にスポットをあててご紹介します。これからも、新しくなった「読書山梨」にご期待ください。

(企画振興担当 岩間しのぶ)

阿刀田 高館長よりご挨拶

## 本に会う、人間に会う

新図書館に寄せられた期待は大きい。

開館してみれば、丸の内にあった旧図書館のほぼ3倍。

私たちの予想をはるかに上まわって来館者の波また波、うれしい悲鳴をあげ続けている。

館員の対応に若干の不行届もあったが、情状を酌量してご寛容をいただきたい。

美しい設備のもとで多くの人が知的な喜びを享受している姿は本当にすばらしい。心強い。若い人たちの姿も多く、

—ここに山梨の、いや、日本の未来がある—

—と思った。

新図書館は本を利用するだけでなく、知的な空間として好奇心を高める交流の場でもあってほしい。それを願って大小いくつかの交流ルームを造った。自由な集まりへの便宜を図り、また講演会や展示会にも積極的に心を配っていきたいと思う。

情報を提供する機関であると同時に人間の存在をも感じさせる空間であってほしい。

たとえば言えば、すてきな知識の人に会ったときの喜び、興奮、満足感、それを建物そのものが与えてくれる、そう言えば私の願いがわかっていたいただけるだろうか。

さあ、みんなでよい図書館を育てよう。

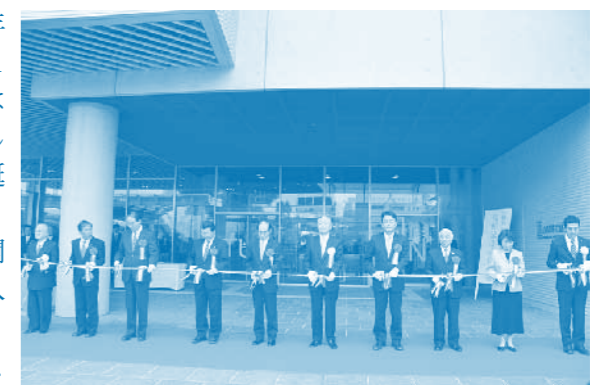
平成24年11月11日  
新県立図書館が開館いたしました！

山梨県立図書館は、新館開館準備のため平成24年6月11日から5ヶ月間の休館期間を経て、11月11日、甲府駅北口に開館の日を迎えました。休館中は皆様に大変ご不便をお掛けしましたが、より充実したサービスを提供する新たな「山梨県民図書館」誕生のためのものごとご理解願います。

開館日は、午前10時よりテープカット、その後開館記念式典を行い、午後1時の開館前には約200人もの長蛇の列ができました。

午後2時から、阿刀田高館長の記念講演を行い、「人と人の交流を通じ知の拠点となる図書館を目指したい。」との館長の講演に、約400人の方々が熱心に聴講しました。

開館直後から、本の貸出などに必要な図書館利用カードの交付を受ける方々が殺到するなど、開館初日の入館者数は4,988人となり、県民の新図書館に寄せる期待の大きさが垣間見えた1日となりました。



開館記念事業

記念講演

阿刀田館長による開館記念講演  
[11月11日]



平成24年度は様々な開館記念事業を実施しましたが、その第一弾が、開館日当日、2時からイベントスペースで開催しました阿刀田館長の記念講演「読書はおいしいぞ」です。館長の幼少期からの豊富な読書体験を織り込みながら、本の楽しさや読書の意義についてユーモアを交えたやさしい語り口でお話いたしました。「俳句や茶道に代表される日本文化は簡素なものの中に喜びを見出す心がある。資源の乏しい日本が先祖から受け継いできた“心の豊かさを求める方法”を今こそ考え直さなければならない。その

方法のひとつが“読書”である」「読書のコツは、自分にとって面白いものを見つけること。ただそれだけでよい。難しく考えず、楽しむことが大切」「99%近い識字率は日本が誇る“資源”。これをしっかり活用し、文化を後世に伝えていく。“図書館”はその一端を担うものでありたい」新県立図書館で阿刀田館長が送る最初のメッセージを、多くの皆様にお受け取りいただきました。

コンサート

開館記念「かいぶらりフレッシュコンサート」  
[11月17日 12月2日]

開館記念のイベント「かいぶらりフレッシュコンサート」を多目的ホールにおいて2回開催しました。

第1回は11月17日に県内の高校生による合唱や室内楽などの演奏が行われ、高校生の元気いっぱいのステージに、観客の皆さんもおもわず笑顔になるような楽しい演奏会となりました。

第2回は12月2日に弓場さつきさんのオカリナ演奏会を開催し、オカリナの澄んだ響きと多彩な音色に、皆うっとりとして聴き入っていました。高校生はもちろんのこと、弓場さんも21歳という大変お若く明るい方で、どちらも新図書館にふさわしい“フレッシュ”なコンサートとなりました。



トークショー  
原画展

スズキコージ原画パレード展&トークショー  
[11月18日~24日]



平成24年11月18日(日)、画家スズキコージさんのトークショーを開催しました。会場は親子連れやファンの方などで賑わい、スズキさんの小さい頃や世界を旅した時のエピソードなどに歓声があがっていました。また、同日から11月24日(土)まで、『エンソくんきしゃにのる』(福音館書店、1990年)、『ブラッキンダー』(イースト・プレス、2008年)などの原画を展示し、大人から子どもまで1,000人以上の方にご来場いただきました。絵本原画の魅力を十分に味わっていただけたのではないかと思います。

トークショー

開館記念トークショー "若い読書を育てる"  
[11月23日]

11月23日(金)、午後1時30分から1階イベントスペースで、トークショー「若い読書を育てる」を開催しました。このタイトルは館長自ら付けられたものですが、「若い読者」でなく「若い読書」としたところが大事で、「ご高齢の方でも本を読むことで若くられる。読書は年齢を超えて楽しむことができるもの」との考えによるものです。出演は館長のほか、長年にわたり日本の漫画界の第一線で活躍されている里中満智子氏と数々の文学賞を受賞された人気作家 森絵都氏。お二人とも阿刀田館長とは気心の知れた仲ということもあり、話がはずみました。里中氏は基調講演で、子どもの頃から何より本に夢中であったこと、読書が今のご自分を作られたことを熱く語られ、それを受けた三人のトークでは、「本を読んだからといって必ず立派な人物になれるわけでもない。読書は気楽に」「読書は必ず配当がある“保険”」など示唆に富んだお話が伺えました。



講座

かいぶらり教養セミナー 阿刀田 高館長連続講座  
「古事記とギリシャ神話ー古典の英知に学ぶー」[12月15日]

阿刀田館長が自身で企画し、講師を務める全6回の連続講座が平成24年12月から平成25年5月まで月1回のペースで行われています。この連続講座は、受講の応募受付を開館日から開始しましたが、その日のうちに定員以上の申し込みがあり、館長の人気ぶりを伺わせました。その1回目は12月15日、多目的ホールにて『古事記』の誕生と古代史、評価の変転と現在という内容で開催されました。受講者の熱気あふれる中、『古事記』の魅力やそれに関わる歴史について、阿刀田館長のお話が始まると、皆さんメモを取りながら熱心に耳を傾けていました。この館長連続講座は、新たなテーマで平成25年の後半にも開催する予定です。

やまなし読書人

第1回 宮川大輔さん

大正時代から続く甲府市中心街の老舗書店、春光堂。その4代目である宮川大輔さんは、「本が一番身近にある文化」という考えのもと、様々なイベントやワークショップを企画されています。その活動は新図書館が目指す「人と本、人と人の交流」とも重なります。そのひとつが「やまなし知会(ちえ)の輪会」。様々な立場、職業の人が紹介した本をメッセージ付きで店頭へ並び、購入者には紹介者へのコメントカードを渡すというユニークな試みです。その活動の根底には、「本を読む楽しみを多くの方に見つけてもらいたい」「人を介して本の楽しみが広がり、本を介して人がつながるようになれば…」という思いがあるそうです。文化を育てるということは読書をする人を育てることだと信じ、本の楽しみを地道に伝えていきたいと熱く語る宮川さん。図書館も書店も共に文化の発信地として連携すべきとのご提案もいただきました。宮川さん、図書館と地元書店とのコラボレーション、是非、実現させましょう!

(企画振興担当: 山形敏貴)